夫立会い分娩の導入

Introduction of husband attendance delivery

西４階病棟　近藤里栄　綿かおる　下村陽子

要旨：『患者の望む看護の提供』という視点から、過去３年間のバースプラン・バースレビューの見直しを行った。その結果、夫立会い分娩の希望が一番多く、導入に向けて検討を開始した。導入後、立ち会い分娩をした夫と産婦双方から肯定的な意見が聞かれた。この結果から夫立会い分娩は夫婦に出産の満足感を与えており、『患者の望む看護の提供』に有用なケアである。

キーワード：夫立ち会い分娩　　バースプラン・バースレビュー　患者の望む看護

Ⅰ．緒言

昨今の周産期事情において、少産の傾向がすすみ、女性が出産する機会が減っている。一方で、出産という数少ない体験を満足の行くものにしようという姿勢は高まってきている。このような現状の中、生命誕生に関わる助産師は、各個人の価値観やニーズに敏感に対応していくことが必要と考える。

私たちの病棟でも、『患者の望む看護の提供』という視点から、過去３年間のバースプラン・バースレビューの見直しを行った。

見直しを行ったところ、食事の改善に関すること、学生実習に関すること、母乳育児に関すること、医療処置に関することなどの要望があった。その中で、「行っていない」と説明していたにも関わらず、夫立会い分娩の希望が625例中52例(8.4%)と要望を記載されたなかで一番多い結果となった。そこで、『患者の望む看護の提供』という視点にたって実施することは大きな意義があると考えられたため、ワーキンググループをたちあげ、検討を行った。

[用語の定義]

夫立会い分娩：妻の分娩に夫が付き添って分娩期の妻を身体的・精神的にサポートし、産痛緩和のためのマッサージなどを行いながら、妻と共に妊娠・分娩期を過ごすこと[1]

[夫立会い分娩の期待される効果]

1）夫婦が共働して妊娠・分娩期を過ごし、わが子の誕生を迎えられる

（1）夫が分娩に立ち会うことで産婦が安心して分娩に臨める

（2）夫婦が共に出産したという満足感を得ることができる

（3）夫婦の絆が深まる

（4）母子相互作用に加えて父子相互作用の機会となる

2）急変しやすい分娩時におけるリスクマネージメントの見地から有用である

（1）産科スタッフの分娩室内での行動を夫が確認できる

（2）異常が起こった場合その発生過程を夫が確認できる

Ⅱ．実施方法・倫理的配慮

平成18年5月：夫立会い分娩ワーキンググループを立ち上げ話し合いを開始

平成18年7月：夫立会い分娩の基準完成

平成18年10月：『夫立会い分娩における産科的医療処置について』（承諾書）完成

平成18年11月12日より夫立会い分娩開始。評価としてアンケート調査実施

［倫理的配慮］アンケート配布時に施行目的と方法を伝え、アンケートは研究以外に使用しないこと、本人が特定されないことを説明した。

Ⅲ．結果

1．実施までの経過

ワーキンググループでは、実施目的を確認すると共に立会い分娩を行う上での対象、夫のお産の学級への参加、分娩経過中の夫への対応や分娩が重なった際の対応、安全面等を話し合い、基準を作成した。7月に基準作成後、産科医師とも検討を行い、8月に基準が完成した。医師と検討していく中で、立会い分娩を行うことで夫の無力体験やその後の性生活の妨げになる[2]という問題が先行研究で指摘されているため、産科的医療処置に対する承諾書を作成した。また、当科ではハイリスク分娩が多く、分娩時、小児科医師が立ち会うことが多くあるため、小児科医師にも説明を行い、同意を得た。

その後、スタッフ全員に伝達し、お産の学級での紹介、外来での啓蒙活動を始め、11月12日より夫立会い分娩を実施することとした。

2．実施基準

・立会い分娩を希望する夫婦

・産科的医療処置についての承諾書に署名した夫婦

・立会い時、夫が健康であること、飲酒していないこと、その場に付き添っていること

・希望があれば、妊娠週数、推定体重関係なく実施する

・立会いは経腟分娩のみとし、夫の立会いに限る

3．実施手順

(1)20週前後の外来受診時に夫立会い分娩の実際について説明

(2)34週頃に産科的医療処置を行う可能性について説明し、承諾書を渡す

(3)入院時に夫立会い分娩の希望の有無を確認し、承諾書を預かる

(4)分娩室転室時に、夫も一緒に分娩室に案内。その際、夫は下足をスリッパに履き替える

(5)出血や排泄物が夫の目に入らぬよう、分娩室での夫の立ち位置は産婦の頭側とし、分娩が重なった際、他の産婦が見えることのないよう、周囲をカーテンで囲む

(6)児の娩出後も立会いは可能。胎盤娩出、裂傷の確認など産婦の処置が終了し、分娩室の環境が整ったら従来どおり、夫以外の家族の面会も可能

(7)立会いをした夫に対し、立会い分娩におけるアンケート施行、産婦には分娩の振り返りとして、バースレビューを渡す

4．実施結果

実施件数(平成18年11月12日～平成19年2月1日)：経腟分娩63件中30件(48%)

方法：立会い分娩をした夫に対してアンケート配布、産婦へ配布したバースレビューの結果より夫立会い分娩における意見を抽出

期間：平成18年11月12日～平成19年2月1日

回答数：夫立会い分娩30件に対し18名の夫より回答

回収率：60%

[夫へのアンケート結果]

◇当院で立会い分娩が出来ると聞いてどう思ったか

「ぜひしたいと思った」16名　「しぶしぶ承諾した」0名　「本当は立ち会いたくなかった」2名

◇当院のお産の学級に参加したか

「参加」7名　「不参加」10名　未回答1名

◇陣痛室で妻に付き添うことについて

「良かった」17名　「良くなかった」1名(理由：何も出来なかったから)

◇分娩中妻にどのようなサポートをしたか(自由記述で回答の多かったもの)

「リラックスさせる」「励ます」「手を握る」「腰をさする」「声をかける」「呼吸法」「マッサージ」

◇立ち会ってみてどんな気持ちだったか(複数回答、回答の多かったもの)

「嬉しかった」16名　「感動した」16名　「よく頑張ったと思った」16名　「父親の自覚を持てた」8名

「お産の大変さ、苦しみが良くわかった」13名　「将来お産の状況を子供に聞かせようと思った」12名

◇もし、機会があれば次も夫立会い分娩を望むか

「はい」17名　「いいえ」1名

◇夫立会い分娩をしてその後の夫婦生活に支障があると思うか

「ない」10名　「前より良くなると思う」7名　「前より悪くなると思う」0名　「わからない」1名

◇児が生まれた瞬間、どんな気持ちだったか(自由記述)

「嬉しかった」「感動した」「安心した」「母子ともに無事に出産できてよかった」「ホッとした」

「生きがいを感じた」「よく頑張ったな」「やっと会えた」「元気な泣き声をきいて安心した」「幸せ」

「妻と子供にありがとう」「言葉に出来ない万感の思いで胸がいっぱいになった」

「父として2人を守っていく決意を新たにした」

◇立会いをしたことによりしなかったときと比べて児に対する気持ちは違うと思うか

「より嬉しい気持ち」16名　「かわらない」1名　立ち会えないことを考えていなかった1名

◇自由記載より

・家族が増えた喜びや夫婦の絆が強くなった

・すごく良いことだと思うのでみんな立会い分娩にすればいいと思う

・立会い分娩は妻や子供に対する愛情が絶対深まると思う。

・真剣なスタッフの姿に感動

・その場にいれてよかったと心から思った

・出産の瞬間に立ち会えたことは今後子育てする上で大きな支えになると思う

・あっという間だったが妻の泣き顔にもらい泣き、すごい感動をもらいました

[産婦からのバースレビューより]

・自分のイメージよりすごく良い出産となった

・周囲の支えの力が強く何とか無事にお産できた

・夫がずっと付き添ってくれて不安はなかった

・夫に立会ってもらって本当によかった

・立会い分娩が出来る状況になっていてよかった。頑張れた

・家族の支えがなければ乗り越えられなかったことだと実感

・夫と共に元気な赤ちゃんを迎えたいと思っていたのでよかった

Ⅳ. 考察

アンケートの結果から、立会い分娩に対し肯定的な意見が多く聞かれた。立会い分娩を行うにあたり、当院では、産婦と夫に承諾書を記入してもらっているため、夫婦で話し合った結果、前向きに立会い分娩に臨んでいると思われる。しかし、「本当は立会い分娩をしたくなかった」という夫の意見もあった。前原は、「夫立会いのニーズがある以上は、助産婦としてそのニーズの正しいアセスメントと実施にあたっての備えるべき条件を正しく理解したうえで、事例毎に備えるべき条件を論じてゆかねばならないと考える[3]」と述べている。そのため、立会い分娩時に両者の意見を再確認し、希望を尊重していくことが必要と思われる。

また、お産の学級への参加率は38%と少なかった。これは、当院では帰省分娩が多いためと考えられるが、助産師としてお産の学級未参加の夫に対し呼吸法や補助動作の指導を行うなど、分娩経過中の現場で状況にあわせたサポートと、産婦、夫への配慮が必要と思われる。

今回、バースプランとバースレビューの見直しを行い、夫立会い分娩の希望が多いことがわかり、導入することができた。東野は、「母親となった女性が母親役割を取得し、育児に主体的に取り組むためには出産体験における達成感や満足感を深めること、あるいは喪失体験を埋めることが必要[4]」と述べている。核家族が増加し、子育てを支援できる担い手が不在がちの現在、患者が望む看護を提供し、夫とともに満足する体験を深めることは重要であると考える。そして、夫のアンケート、産婦のバースレビューから、「夫がずっと付き添ってくれて不安はなかった」「出産の瞬間に立ち会えたことは今後子育てする上で大きな支えになると思う」「家族が増えた喜びや夫婦の絆が強くなった」「真剣なスタッフの姿に感動」という意見があり、夫立会い分娩の期待される効果が得られている。斎藤は、「分娩の満足度を高める援助として、助産婦には積極的に夫立会い分娩に関わっていくことが期待される[5]」と述べている。夫立会い分娩を導入できたことは『患者の望む看護の提供』という視点からも有用なケアであると考える。

Ⅴ. 結語

夫立会い分娩は夫婦に出産の満足感を与えている。今後も要望を取り入れながら『患者の望む看護の提供』という視点にたって分娩の満足度を高める援助として積極的に関わっていく。

Ⅵ. 文献

1)高橋真理：夫立ち会い出産の心理的効果，ペリネイタルケア，第13巻春期増刊；71-76，1993

2)木村好秀，加藤さつき：夫立会い分娩，周産期医学，第27巻増刊号；328-329，1997

3) 前原澄子：夫立会い分娩を助産婦としてどう受けとめるか，助産婦雑誌，40(8)；12-19，1986

4)東野妙子：バースレビュー徹底研究，ペリネイタルケア，25(8)；9，2006

5) 斉藤益子：夫立会い分娩，ペリネイタルケア，夏季増刊，150-153，1999